

平成24年度第3回ゼニガタアザラシ保護管理検討会の概要について

1. 日 時 平成25年1月15日（火）13：30～16：00
2. 場 所 札幌第1合同庁舎3F 北海道地方環境事務所会議室
3. 委員会出席者（敬称略）

座長	羽山伸一	日本獣医生命科学大学獣医学科野生動物学教室教授
委員	小林万里	東京農業大学アクアバイオ学科水産資源管理学研究室准教授
委員	桜井泰憲	北海道大学大学院水産科学研究院海洋生物資源環境部門資源生態学領域教授
委員	坪田敏男	北海道大学大学院獣医学研究科環境獣医科学講座野生動物学教室教授
委員	白鳥浩二	北海道環境生活部環境局自然環境課担当課長
委員	三戸 充	えりも町産業振興課長
委員	平野正男	えりも漁業協同組合組合長
委員	石川 昭	ERIMO・SEAL・CLUB会長
オブ	三好 誠	北海道水産林務部水産振興課主査
オブ	小見敏一	北海道漁業協同組合連合会環境部次長
オブ	佐藤伸治	北海道札幌方面浦河警察署副署長
オブ	早川昌利	第一管区海上保安部警備救難部警備課課長補佐

4. 概 要

（1）平成24年度事業報告について

平成24年度事業の残期間については、銃による捕獲は3月中旬までモニタリングを行い実施を検討するとともに、網による捕獲については他地域に生息するゴマフアザラシでの捕獲を検討することとした。

（2）平成25年度事業（案）について

ア 防除対策

- ・音による防除対策を継続することを了承された。
- ・岬先端部では被害が多すぎて、効果の検証が難しいが、ある程度離れた場所で設置すれば効果が確認できるので検討することとした。
- ・音による防除のみでは大きな効果は望めないため、捕獲用小定置網との組み合わせによる防除ができないか検討することとした。

イ 捕獲技術手法の開発

- ・銃による捕獲について継続して実施することを了承された。
- ・岬先端での銃による捕獲は困難と考えられるので見送ることとした。
- ・網による捕獲について継続して実施することを了承された。
- ・手法の開発については試行錯誤しながらの実施になることが多く、その都度委員を招集して検討会を実施することは困難である。このため、メールにより各委員の意見を聞き合意を得て事業を進めることで事業の迅速化を図ることの了解を得

た。

ウ モニタリング

- ・平成24年度と同様の項目を継続して実施することを了承された。

(3) その他意見等

- ・定置網に進入して悪さをする常習性の高いゼニガタアザラシを対象に捕獲することが必要である。
- ・地元としては、いままで積極的に協力してきたが、警備の問題や災害時の補償など様々な問題が多すぎて、このような事業に漁業者が加わるのは限界があると感じている。
- ・鳥獣保護管理計画の策定にあたり、関係者の考えに温度差があるので、社会学者を検討会委員に入れるべきではないか。
- ・えりも地域の活性化につなげるには、もっと大きなくくりで多くの関係者が入って議論する協議会が必要ではないか。えりもの地域をどうするかということについて真剣に議論しないと、漁業とゼニガタアザラシとの対立構造に限定されてしまい互いが不幸になる。